

日光街道400年の
「むかし」と「いま」を
同時に歩こう

徳川家康が日光
東照宮に改葬された元和3
(1617)年に街道・宿場がともに整備さ
れたという日光街道。この日光街道は宇都宮
では奥州街道とも重なり、多動交代をする奥
州藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した
り、宇都宮からは4つの宿場を経て日光に到着し
ます。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部
として辿った日光街道のうち、栃木の宿場を
自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、
現在の姿もまた見つけ直して
みませんか。

宿場マップについて

日光街道には江戸千代手を最初の宿場として日次の鉢石宿まで1の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州街道と重なっていました。このマップでは、この21宿のうち奥州側の野舟宿から鉢石宿までの12宿を中心に6冊に分けて編纂しました。これら宿場の周辺には旅人の宿として繁盛した当時の名残りをとどめ様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われている行事もあります。さらに道中の自然や見どころも広く紹介されています。このマップを活用して、歩きながら、日光街道の“むかし”“いま”をお楽しみください。

地図の凡

- 旧日光街道
 - 一般国道
 - 主要地方道
 - 一般県道
 - 有料道路
 - 名所・史跡
 - T トイレ
 - P 公園
 - P 駐車場
 - その他のポイント
 - ☰ 案内看板等
 - i 観光案内所
 - ☎ 官公庁
 - 杉並木

日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1白図を使用し、近世の日光街道を赤色赤の塗線、また、通行不能区間及び仕定が不明な箇所は除線にて表した。

世界遺産登録

1999年12月2日にモロッコで開かれたユネスコ総会で、日光街道の終点とも言うべき日光山内地区の2社1寺の造物群と周囲の文化的景観が、世界遺産に登録されました。

登録の内容

- ◆名称
*日光の社寺
- ◆世界遺産条約上の区分
*文化遺産
- ◆登録資産
*建造物群
にっこうあたらさんじんじや
・日光二荒山神社
にっ こう とう しやう ぐう
・日光東照宮
にっこう きん りん のう じ
・日光山輪王寺
- *遺 跡(文化的景観)
・日光山内の建造物群周辺の山林地域
- ◆登録の範囲
- | | |
|----------|---------|
| *登録資産の面積 | 50.8ha |
| *緩衝地帯の面積 | 373.2ha |
| *合 計 | 424.0ha |

「日光の社寺」世界遺産区域には、国宝が9棟、重要文化財94棟という、歴史的に価値のある建造物があります。

この中で、国宝と重要文化財に指定されている建築物の数の次の通りです。

*日光二荒山神社——23棟が重要文化財
*日光東照宮——8棟が国宝、34棟が重要文化財
*日光山輪王寺——1棟が国宝、37棟が重要文化財

【合計 103棟】

① たきのおじんじゃ
滝尾神社

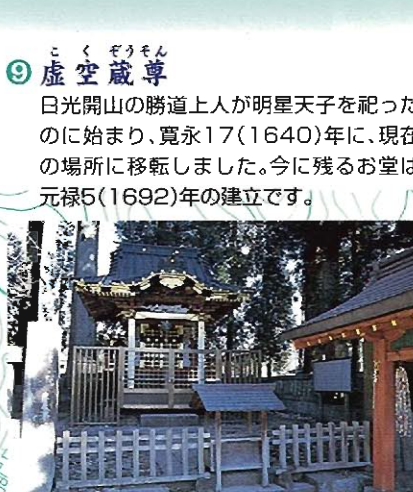


弘仁11(820)年に、弘法大師空海が神霊の降下を祈し、女神の姿を見て建立したと伝えられる神社で、荒山神社の別宮です。参道の途中にある三の鳥居(だめしの鳥居)や、縁結びの笹などで人気があります。

徳川家康公を祀るために、2代将軍秀忠公が元和（1617）年に創建。その後、3代将軍家光公が1年5ヵ月かけて大改修をし、完成させました。この建築にかかった費用は56万8千両といわれ、現在のお金にして400億といわれています。陽明門をはじめとして42の建物はすべて、国宝並びに重要文化財の指定を受けています。



小杉放菴記念日光美術館
日光市出身の画家・小杉放菴の作品を中心に、「自然への
いつくしみ」をテーマとした作品の展示をしています。



【主な行事】**日光市 祭り**①

強飯式(ごうはんしき) 日光山輪王寺三仏堂 毎年4月2日

強飯式は、日光山輪王寺に伝わる古式。坐 修験者の姿をした強飯僧が、3杯の飯が入った山盛りのお椀を、信者から募った強飯頂戴人に差し出し、「75杯1料残さず食べろ」と責め立てるもの。強飯頂戴人になって儀式を受けると、無病息災など家々との運を授けられるといわれている。

生岡神社の子供強飯式 生岡神社 毎年11月25日
生岡神社にて「子供強飯式」が行われ、こちらは強飯僧や強飯頂戴人を氏子の子どもも演じている。太郎坊、次郎坊（頂戴人）が竹かを頭にのせていたり、「強飯式」案内申すを「おはよしきに案内手」となまって山盛の里守を頂戴人の口に押し込んで食べさせるなど、子供の儀式ならではのユーモアに富んでいる。

弥生祭 二荒山神社 毎年4月13日～17日
「日光の春は弥生祭から」の言葉どおり、毎年4月13日から17日までの5日間にわたって繰り広げられる二荒山神社の例祭・弥生祭は、山の都・日光に、灼爛たる春を告げる祭りである。

百物揃千人武者行列 日光東照宮 表参道 5月18日、10月17日
家康公を駿府久能山から日光へ改葬した時の行列をそのまま再現したもので、表参道を約1km御旅所まで往復し、御旅所では、八乙女の舞・東遊舞も執り行われる。東照宮の春と秋の例大祭に行われる。

【主な行事 **日光市** 祭り】①

JR日光駅
JR東日本管内で最古の本造建築。夜になるとライトアップされ、白亜の駅舎が幻想的に浮かび上がります。

日光街道の起点には
なんと石がある
鉢石宿

日光街道の最終宿駅。日光宿といえばよいのに
と思う人もいるでしょう。しかし、鉢石宿と言います
それは、鉢の形をした石があって、それにちなんで
名づけられたからです。現在も鉢石といわれる
石が町内にあります。鉢石宿は中世からの輪王寺
の門前町で、上・中・下鉢石町からなっていて、正
保元年(1644)に伝馬宿に定められました。

本陣は下鉢石町に2軒ありましたが、今も面影をとどめているのは、日光市役所の入口と道をさんだ反対側にある高野家だけで、その庭には芭蕉の句碑があります。「あらたふと木の下闇も日の光」と刻まれた句は、『奥の細道』の中にある「あらたふと青葉若葉の日の光」と定まる前の句です。

 街道名物 **日光は「ゆば」の町**

日光ゆばは豆乳を煮たときにできる薄い膜を引き上げ、幾重にも巻きあげて作られています。水には日光の名水を使ってあり、伝統ある名産品といえます。「湯波」と書き、そもそもは修行僧のたんばく源として、作られてきました。日光の市内で、さまざまなゆば料理を食べることができます。

がある



物館蔵)


 知って
なるほど!
 日光社

日光街道は、もとが東照宮の参道として整備されました。「伊勢参りの道」のような「信仰の道」ではなく、実際は「政治の道」でした。日光街道の一大イベントであった将軍参りの大行列がそのことを示しています。この行列は幕府の威光を周囲の大名に見せつけるものだったのです。

徳川幕内に15代280年間に合計19回の将軍参参があったといわれます。なかでも、8代将軍吉宗の参参は、参員として人員が25万人にもなりました。しかし、これだけの規模で日光に到着しても、たった1泊で帰還に着いたことから、参参を名目にした人事演習だったという見方もあります。

日光杉並木街道

370年の歴史を見つめる 杉並木

日光といえば杉並木とすぐさま言われるほど、日光街道の杉並木は有名です。街道筋をずっと歩いていくと、文字通り、道の両側に天にまでそびえる緑のカーテンがあるような気がします。

日光杉並木は、日光・例幣使・会津屋の3つの街道あわせて全長37kmの両側にそびえ立ち、その杉並木数は13,000本弱といわれています。

この杉並木をつくりあげたのは、徳川家康の忠臣松平正綱で、20年余の年月をかけて20万本あまりの杉を植え、家康の33回忌にあたる慶安元(1648)年に日光東照宮に寄進しました。

植え始められてから約370年、樹高30mにもなった杉の木は、日光街道の来し方の様々な出来事を見つめつつ、将来へと受け継がれていくことでしょう。

現在、日本で唯一、特別史跡と特別天然記念物の二重指定を受けています。

また、平成4(1992)年には、ギネスブックは世界一長い並木道として認定しました。

